

子ども学の

ひろば

『お茶大子ども学ブックレット』バックナンバーのご案内

お茶の水女子大学「乳幼児教育を基軸とした生涯学習モデルの構築」(ECCELL)事業では、研究活動の一環として「子ども学シンポジウム」「お茶大保育フォーラム」等を開催し、その記録を『お茶大子ども学ブックレット』という冊子にまとめ、発行しています。バックナンバーの購入をご希望の方は、お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所事務局ブックレット担当：nyuyoji-info@cc.ocha.ac.jpまで、メールでご連絡ください。一冊500円(送料別途負担)にて郵送させていただきます。なお、在庫が無くなり次第、販売終了となります。

Vol.1 (2012年9月発行)

『子育て力の危機と創生～エンパワーメントの視点から～』(牧野カツコ氏、星美和子氏)

Vol.2 (2013年3月発行)

『今、子どもが育つ環境を考えるI～「ナージャの村」本橋監督をお迎えて～』

(本橋成一氏、小玉亮子氏、榊原洋一氏)

Vol.3 (2014年3月発行)

『絵本の挿絵について』(黒井健氏)

Vol.4 (2014年9月発行)

『これからを生きる子どもたちへ～津守眞氏からのメッセージ～』(津守眞氏、高橋洋代氏)

Vol.5 (2015年3月発行)

『日本の保育現場における“遊び”の意味』

(榊原洋一氏、河邊貴子氏)

Vol.6 (2015年12月発行)

『鼎談「子ども・戦争・歴史」』

(本田和子氏、宮澤康人氏、山本秀行氏)

Vol.7 (2015年8月発行)

『認定こども園の今とこれから』

(渡辺英則氏、無藤隆氏)

※「Vol.6」と「Vol.7」は発行年月が前後しています。

本で紹介

『大人になるっておもしろい?』清水真砂子著
岩波ジュニア新書 2015年

「ひとりであるっていけないこと?」「けんかってそんなにいけないこと?」「質問するってめんどくさい?」「動かないでいるって、そんなにダメなこと?」……目次には、そんな問いかけが並ぶ。そして著者は、若い友人Kに語る言葉として「明るすぎる渋谷の街で考えたこと」の章の中で例えばこんなことを言う。「悩んでいいのです。はぐらかさず、とことん悩んでください。悲しんでください。ただし自己憐憫ではなく、他者のために悲しんでください。」と。また、本のタイトルである問いには、「うん、だんぜん!!」でも焦らないで。現在をていねいに生きてほしい。」と答え、独り居の時間も大切なこと、本を読む、ということが支えになったと語る。著者の言葉は決して耳障りの良い、飲み込みやすい言葉ではない。そこが良さだ。こんな言葉を、若者たちに送ってくれる人がいることに感謝したい。(KT)

DVDの紹介

『世界の果ての通学路』(監督:パスカル・ブリソン
2012年 フランス) 販売元:角川書店 2015年

ケニア、アルゼンチン、モロッコ、インドに住む子どもたちの通学のさまを追ったドキュメンタリー。一部に、映像のために日常を再現してもらったシーンもあるそうだが、基本的には、その子たちのごく日常的な通学の光景が映し出されていることには変わりはない。スクリーンいっぱいの風景の「広さ」、道の果てしなさに、ただただ圧倒される。「よくもまあ、こんな険しく長い道のりを」と、言葉を無くし、涙が出てくる。しかしそれは決して、つらかりうとか、かわいそう、という気持ちからではなく、むしろ、もう絶対この人たちにはかなわない、という、畏怖に近い憧憬だと思う。砂にまみれていても、登場する子どもたちは皆ほんとうに美しい。そして、気高い。大人たちもまた。(KT)